

第2回

稲築東中学校区 小中一体型校施設整備協議会

資料

令和元年10月17日

1-1 稲築東小学校の現況

1-1-1 建物配置

(1) 建物配置

稲築東小学校の校舎は、鉄筋コンクリート造2階建の建物が渡り廊下によって結ばれた片廊下（コの字型）の平面形状です。

校舎棟と体育館は北側配置、学童とプールは東側配置、グラウンドは南側配置です。

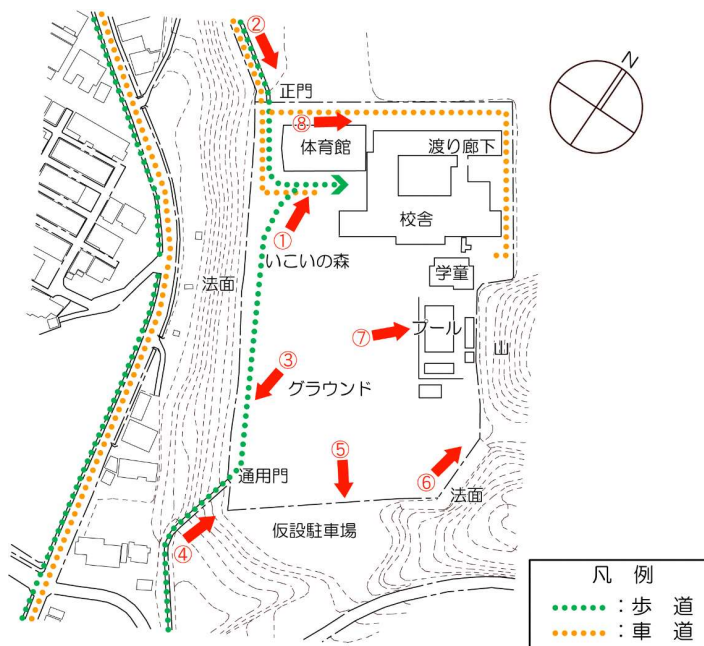
(2) アプローチ

敷地西側に市道に沿う緩やかな登り傾斜のアプローチがあり、正面玄関と昇降口に導かれます。

(3) 学校まわりの現況

敷地全体は小高い丘陵地の上にあり、法面が囲みます。

図 1-1-1-1 敷地の周辺環境



①正門のアプローチと体育館



②正門西側坂道の通学路
「がまん坂」



③西側既存法面と高木(常緑)



④通用門と「きぼう階段」
グラウンドにアプローチする
階段



⑤仮設駐車場と高木(常緑)
グラウンドにアプローチする
門扉



⑥東側間知ブロック積擁壁と
モルタル吹付の法面



⑦東側プールと更衣室に
隣接する裏山

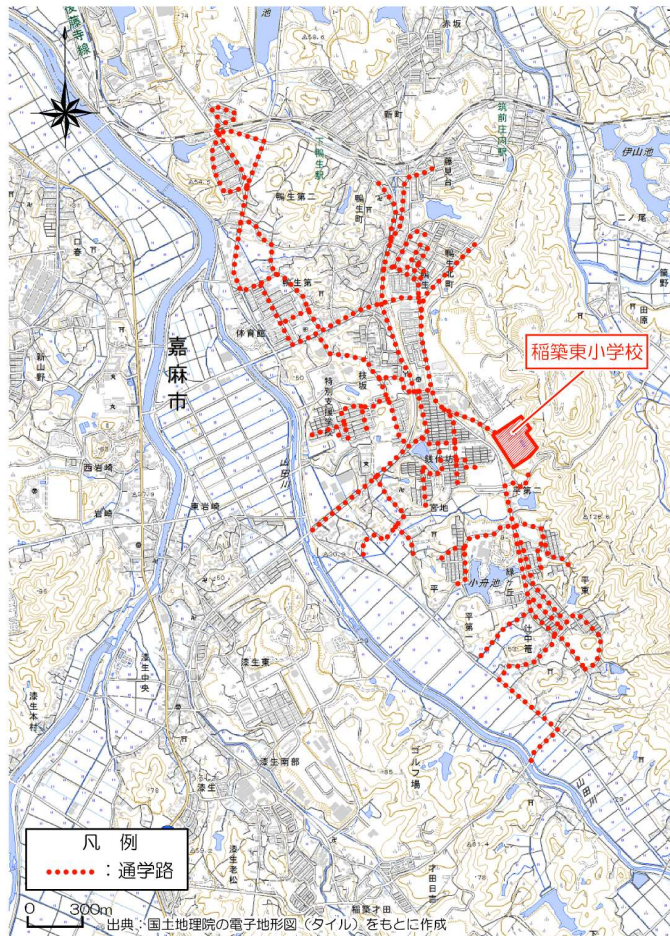


⑧北側敷地内通路
老朽化ネットフェンス

1-1-2 通学路

通学路は、多くが稲築東小学校の南北側に沿っており、住宅地を通ります。児童の学校敷地への進入は西側正門と南側通用門となります。

図 1-1-2-1 通学路



1-1-3 稲築東小学校敷地

施設整備の計画候補地としての利点・課題・課題対応策を以下のとおり示します。

利点	- 敷地面積は約 28,000 m²です。 - 現学校敷地であるため、用地買収等の経済的負担もなく早期着工が可能です。 - 通学路の変更はありません。 - 高台に位置し、防災拠点としての機能を有しています。 - 子どもたちにとって親しみのある場所で、移転に伴う精神的不安が軽減されます。 - 校区のほぼ中心に位置しています。
課題	- グラウンドに校舎を建設する場合は、整備期間中のグラウンド利用が出来ないため、代替地の検討が必要です。 - 現校舎の場所に建設する場合は仮設校舎が必要です。 - 建設時に児童の安全面や教育活動への影響が懸念されます。 - 敷地全体が小高い丘陵地にあり、法面に囲まれているため学校活動が分かりにくいです。 - 土砂災害・水害ハザードマップ（嘉麻市令和元年6月作成）にて、稲築東小学校敷地一部が「土砂災害警戒区域」に指定されています。
課題対応策	- 工事用進入路が一か所であるため、安全かつ教育活動への影響を最小限に抑えるローリング計画を検討します。 - 一部「土砂災害警戒区域」に指定されているため、土砂災害対策工事が必須条件です。 - グラウンドの沈下が発生したことがあり、十分な地盤調査が必要です。 - 通学路車道幅員が狭く離合し難いため、道路の安全対策が必須条件です。

1-2 稲築東中学校の現況

1-2-1 建物配置

(1) 建物配置

稲築東中学校の校舎は、鉄筋コンクリート造3階建の建物が渡り廊下によって結ばれた、片廊下（一文字型）の平面形状です。

校舎棟と体育館は西側配置、武道場は南側配置、プールは北側配置です。グラウンドは東側配置です。

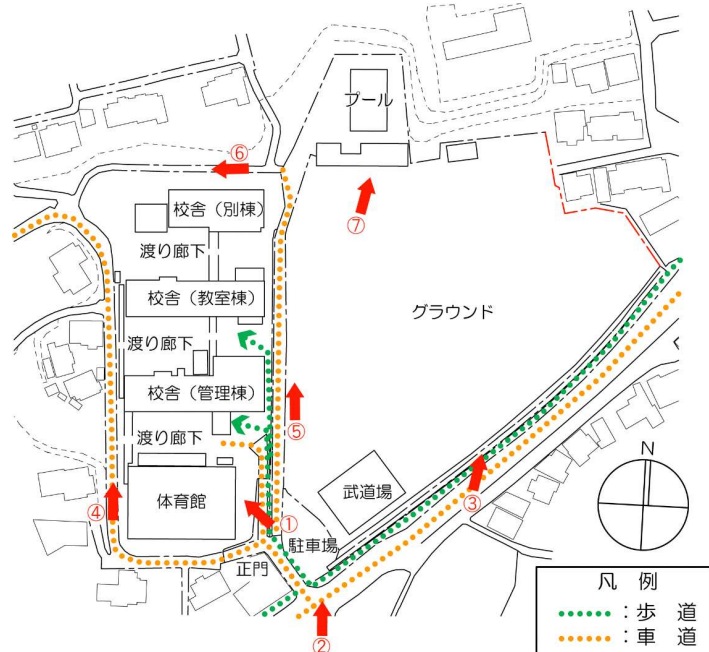
(2) アプローチ

敷地南側の市道に沿う体育館と武道場の中央にアプローチがあり、南側中央の正面玄関と昇降口に導かれます。

(3) 学校まわりの現況

敷地東側は、住宅地に近接しており、敷地北側は、丘陵地形の住宅地が広がり、敷地西側は、市道を挟んで住宅と接しています。敷地南側からは、学校が見渡せる空間が広がります。

図 1-2-1-1 敷地の周辺環境



① 正門の明るいアプローチと体育館



② 武道場と駐車場のある南側交差点



③ 南側歩道とグラウンドの防球ネット



④ 西側道路と住宅地側ガードレール。ネットフェンスと稲築東中学校が見える



⑤ 中央敷地内通路
グラウンドと1m程度の高低差



⑥ 北側狭小道路より老朽化ネットフェンスと隣接雑木林が見える

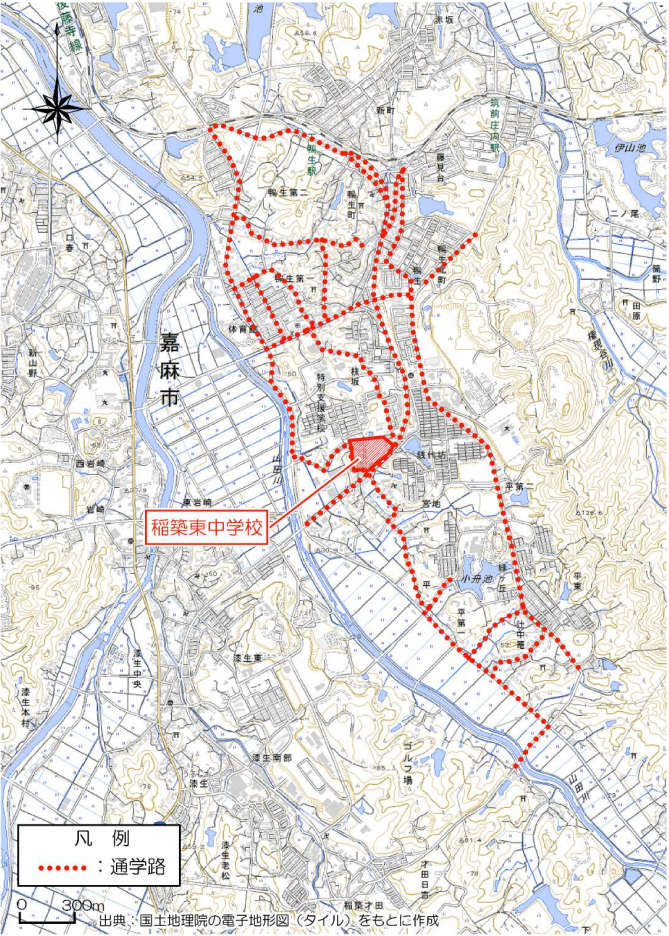


⑦ 北側プールと更衣室
グラウンドと2m程度の高低差

1-2-2 通学路

通学路は多くが稲築東中学校の南北側に沿っており、住宅地を通ります。生徒の学校敷地への進入は、南側正門となります。

図 1-2-2-1 通学路



1-2--3 稲築東中学校敷地

施設整備の計画候補地としての利点・課題・課題対応策を以下のとおり示します。

利点	・敷地面積は約 29,000 m²です。 ・現学校敷地であるため、用地買収等の経済的負担もなく早期着工が可能です。 ・通学路の変更はありません。 ・子どもたちにとって親しみのある場所で、移転に伴う精神的不安が軽減されます。 ・校区のほぼ中心に位置しています。 ・敷地全体が開けており、外部から学校活動が見渡せます。
課題	・グラウンドに校舎を建設する場合は、整備期間中のグラウンド利用が出来ないため、代替地の検討が必要です。 ・現校舎の場所に建設する場合は仮設校舎が必要です。 ・建設時に生徒の安全面や教育活動への影響が懸念されます。
課題対応策	・仮設校舎計画を含めた配置計画を検討します。 ・安全かつ教育活動への影響を最小限に抑えるローリング計画を検討します。

□ 稲築東小学校敷地と稲築東中学校敷地の比較について
稲築東小学校敷地と稲築東中学校敷地の下記3項目比較を示します。

比 較 項 目	稲 築 東 小 学 校 敷 地	稲 築 東 中 学 校 敷 地
敷 地 面 積	約 28,000㎡	約 29,000㎡
安 全 性	敷地一部「土砂災害警戒区域に指定」 (福岡県 土砂災害ハザードマップ 平成27年1月) グラウンドの沈下が発生したことがあり、十分な地盤調査が必要。	——
地域の資源として機能する施設	敷地全体が小高い丘陵地の上にあるため学校活動がわかりにくい。 学校進入路の拡幅が必要(がまん坂)	防災拠点としての機能を有している。
計画候補地としての適正	△	○